



ヤツェク・カスプシク指揮

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

ニューイヤー・コンサート



©Sophie Wright

Conductor

指揮 ヤツェク・カスプシク

ヤツェク・カスプシクは、2013年9月1日、ワルシャワ・フィルハーモニーの音楽芸術監督に就任した。1975年ワルシャワで指揮、音楽理論、作曲を専攻して卒業。1977年ベルリンのカラヤン指揮者コンクールで3位となり、1978年のベルリンとニューヨーク・フィルのデビューにつながった。1982年以降、フィルハーモニア管弦楽団、ヨーロッパ室内管弦楽団と共演し、フィルハーモニア管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルにも客演した。その他、米国(シンシナティ響)、カナダ(カルガリー・フィル、ウィニペグ響)、日本(読売日響、東京フィル)、香港フィル、ニュージーランド響も指揮している。

カスプシクは祖国ポーランドでも数多くの要職を歴任してきた。主なものとしては、ポーランド国立放送交響楽団の音楽監督、NFMヴロツワフ・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督などがある。

ポーランド国立歌劇場の音楽監督および芸術総監督の在任中には、同歌劇団を率いて北京音楽祭、モスクワのポリショイ劇場、ロンドンのサドラーズ・ウェルズ劇場、香港芸術祭に出演し、さらに3回にわたる日本ツアーを行い、いずれも大成功を取めた。

最近では、2012年のブレゲンツ・フェスティバルでのウィーン交響楽団との再共演、フェスティバル・ド・ラ・ロック・ダンテロンへの出演などがある。2010年にはアルゲリッチと共演したショパンのアルバムがリリースされた。カスプシクは多くの賞を受賞しており、近年では、権威あるエルガー協会メダル(エルガー作品の解釈に対して)、「コリュバイオス・オブ・ポーリッシュ・ミュージック」賞(「ワルシャワの秋」音楽祭でのコンサートに対して)、ガゼタ・ヴィボルチャ紙の「マン・オブ・ザ・イヤー」聴衆賞を受賞した。

Piano

うしだともはる
ピアノ 牛田智大

1999年いわき市生まれ。父親の転勤に伴い、生後すぐ上海に移り6歳まで滞在。3歳よりピアノを始め、5歳で第2回上海市琴童幼儿鋼琴電視大賽年中の部第1位受賞。8歳より5年連続でショパン国際ピアノコンクール in ASIAで1位受賞。2012年(12歳)、第16回浜松国際ピアノアカデミー・コンクールにて最年少1位受賞。同年3月、日本人ピアニストとして最年少(12歳)でユニバーサルよりCDデビュー。2015年「愛の喜び」に続き、2016年「展覧会の絵」はレコード芸術で特選盤に選ばれている。

2014年9月には初の海外公演を行い、台湾の高雄市交響楽団と共演。2015年6~7月にはブレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管弦楽団日本公演、2016年10月小林研一郎指揮ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団日本公演のソリストを務め、絶賛を博す。2017年3月、バンコクにてタイ・フィルハーモニー管弦楽団と共演。今迄に陳融楽、鄭曙星、金子勝子の各氏に師事。現在、モスクワ音楽院ジュニア・カレッジに在籍。ユーリ・スレサレフ、ウラディミール・オフチニコフ他の各氏に師事。



©Ariga Terasawa

Orchestra

ワルシャワ国立
フィルハーモニー管弦楽団

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団は、1901年11月5日、新しく建設されたフィルハーモニー・ホールで、同楽団にとって最初となる演奏会を行った。この旗揚げコンサートは、同楽団の初代音楽監督で首席指揮者のエミール・ムイナルスキが指揮し、世界的に有名なピアニストで作曲家、後には政治家となった、イグナツィ・ヤン・パデレフスキがソリストとして出演した。

ポーランドで最も代表的なオーケストラで、首都ワルシャワを本拠地として活動。創立当時から高い評価を受け、グリーグ、クレンペラー、プロコフィエフ、ラフマニノフ、ラヴェル、R.シュトラウス、ストラヴィンスキー、アラウ、ホロヴィッツ、ケンプ、ルービンシュタイン、サラサーテなど一流の音楽家たちが客演した。

1950年音楽監督兼首席指揮者にヴィトルド・ロヴィツキが就任、飛躍的な発展を遂げ、世界でも第一級のオーケストラに成長した。1955年2月21日には、第二次世界大戦中に爆撃で破壊されたホール跡地に新しいフィルハーモニー・ホールが再建され、この日、ワルシャワ・フィルは、「国立フィルハーモニー」の称号を授与された。

同楽団は、バンデレツキやシマノフスキの作品などの録音により、権威あるレコード賞を受賞している。2013年のグラミー賞受賞の他、同賞には6回ノミネートされている。また、ショパン国際ピアノ・コンクール創設当初から、本選でファイナリストたちの伴奏を担当している。

